



報道関係各位

2018年2月16日

平昌 2018 冬季パラリンピックに学生と教職員で構成する調査団を派遣

東京 2020 大会とその先の共生社会の構築に向けて大学の貢献の在り方を模索

上智大学（東京都千代田区、学長：曄道佳明）では、2018年3月7日～11日に平昌 2018 冬季パラリンピックに7名（教員2名、職員2名、学生3名）の調査団を派遣します。この度の派遣は、韓国における障害者スポーツ普及や社会的包摂教育などへの取り組みの調査を行い、東京 2020 大会とその先の共生社会の構築に向けて、教育機関として諸問題解決に向けた施策や研究での貢献を図ることを目的としています。特に学生メンバーに対しては、学生目線での提案のほか、本学が展開する「ソフィア オリンピック・パラリンピック プロジェクト」の学生中心メンバーとして、今後、障害者スポーツ普及、ユニバーサルデザインやユニバーサルマナー普及に関する啓発活動などのまとめ役としてリーダーシップを発揮することが期待されています。

現地では、パラリンピックの会場視察や競技観戦だけではなく、ソウルにて障害者支援団体や本学と同じカトリックイエズス会を母体とする協定校のソガン大学なども訪問してインタビュー調査を行う予定です。本学がパラリンピックに調査団を派遣するのは、リオ 2016 大会に続いて2回目となります。

調査団の学生メンバーは学内公募で選出されており、応募者の中から選ばれた派遣予定の神野帆夏さん（外国語学部1年）は「言語面や障害者を含む多様な方に対する対応など、日本と韓国は似たような課題を抱えているように思う。真の国際人に求められるものは何なのかをしっかりと体感し、この経験を全国の大学生やこれから入学してくる未来の大学生に発信していきたい。」と参加の目的を話しています。

本学では、「他者のために、他者とともに」の教育精神に基づき、東京 2020 大会のみならず、ボーダーレスな共生社会の実現を展望する機会を提供することを目的に、教職員と学生による「ソフィア オリンピック・パラリンピック プロジェクト」を2016年に立ち上げました。リオパラリンピックへの調査団派遣のほか、国際パラリンピック委員会のフィリップ・クレーブン前会長による講演会、共生社会やオリンピック・パラリンピックに関する授業の開講、言語サービスボランティア養成講座、交通機関のバリアフリー調査、義足アスリートとの交流イベントなどを実施しています。

■平昌 2018 冬季パラリンピック調査団派遣概要

期間	2018年3月7日(水)～11日(日)	
派遣人数	7名(教員2名、職員2名、学生3名)	
派遣目的	①諸外国・大学の障害者スポーツ普及や社会的包摂教育などへの取り組みの聞き取り ②本学の教育、研究に寄与する情報の収集、調査 ③共生社会の実現に向けた本学学生の能動的な取り組みの支援	
調査内容 (予定)	アクセシビリティ調査	金浦空港、仁川空港、ソウル地下鉄、KTX(韓国高速鉄道)、平昌オリンピックスタジアム、競技会場ほか
	訪問調査	ソガン大学、ナザレ大学、Koddi(韓国障害人開発院)、SSAD(ソウル障害者体育協会)、KOSAD(大韓障害者体育会)など
	その他	開会式、競技観戦、アスリート・来場者インタビューなど
ソフィア オリンピック・パラリンピック プロジェクト ホームページ http://www.tokyo2020sopp.com		

報道関係からのお問合せ先：上智大学広報グループ

電話：03-3238-3179 Eメール：sophiapr@cl.sophia.ac.jp